

シリーズ：進化し続ける産総研のコーディネーション活動(第51回)

目指すはきめ細やかなコーディネート

産業技術指導員 すずき たかかず
鈴木 孝和

はじめに

今、産総研では、中小企業を“日本の成長の心臓”と位置づけ、地域に点在する中小企業への支援、イノベーション力強化への貢献を命題の一つに掲げています。

筆者をはじめ、産総研OBからなる産業技術指導員は、中小企業と産総研との連携体で中小企業庁戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）に採択されるように、また外部資金を獲得できるように、全国的にコーディネート活動を推進しています。



背景

筆者の研究歴としては、住友金属工業（現：新日鐵住金）、川崎重工業、日本軽金属などとのコーティング関連の共同研究や宇宙・航空用の先進複合材料開発の国家プロジェクトなどがあり、担当項目での外部資金獲得額は1.5億円に上りました。

一方、成果普及でのコーディネート歴としては、各研究ユニットや研究コーディネータ（当時）、国際・産学官と連携し、IT、バイオ、ナノテク、環境関連の分野で国際シンポジウムの開催や、海外展示会への出展を成功に導きました。

どのようにして何を成し得たか？

就任当時の上司からは、徹底的な成果主義を叩き込まれました。その結果、プロ意識をもって、総合力と集中力を発揮し、年間を通し体調を維持し、地道に活動をしてきました。自身の活動では有力企業の発掘、交渉、企画・立案、公募提案、採択、成果の発信・事業化へのアドバイスあたりまでが任務と考えています。

企業と密なコミュニケーションをもちながら、細かく行き届いたコーディネート活動を行い、Win-Winの関係構築を目指しています。



博多で開催された革新的リフロー開発推進委員会の様子
筆者は奥の列の一番左

筆者は、これまでの3年間の活動によって産総研内の連携研究部門に3億円を超える外部資金を導入しました。提案案件の採択率は80%以上、また、3年連続で年間4件以上のサポインテーマが採択されています。

目的を明確にしたコーディネート

時に厳しく、時に穏やかに、目標達成のためのコーディネートをした結果、サポイン審査基準の要求レベルにまで根気よく取り組んでくれた企業は概ね採択されています。

比較的難しいと思っていた企業が見事採択されたときの喜び・達成感は格別です。採択後も最良の成果が得られるよう支援しています。

連携をコーディネートするとき、社長不在で進めていると大事な決断の場面です。それまでの努力が水の泡になることがあります。交渉相手が適切かどうかの判断はとても重要です。

切り札は人脈

筆者の場合、産総研の事業所間を越えた長年のテニスプレーヤーとしての人脈、ビッグサイトの展示会の常連客としての人脈、これまでの連携企業とのつながりなどがずいぶん役立っています。霞ヶ関勤務経験による土地勘（案件ごとの相談先の判断、タイミング）なども貴重なツールです。

おわりに

日本の地域・中小企業に慕われるコーディネート活動をさらに進めていき、日本全土に顧客を増やし日本のものづくり技術の高度化、国の成長戦略にさらに力を注ぎます。

これを機会に事業化の相談、連携希望などお気軽にお声をかけていただければ幸いです。



ここ3年間で筆者がコーディネートしたサポイン採択企業の所在地（赤色）と現在コーディネート中の中核企業の所在地（緑色）（2014年3月現在）